

DYNAUDIO
ワイヤレススピーカー「Music」シリーズ

斬新なデザインと抜群の音質!! 噂のシステムがベールを脱いだ

問い合わせ/ダイナオーディオジャパン TEL03-5542-3545 http://dynaudio.jp



取材文/山本明

室内に芳醇なサウンドが満ちる。その音に、スピーカーが見当たらない。ダイナオーディオの「Music」シリーズはじめて接した人はそんな驚きと出会うだろう。「Music」シリーズは、通常のスピーカーとは異なり、おしゃれなインテリア感覚のワンポッド型だ。WiFiやBluetoothに対応するワイヤレス方式で、常識を覆すフォームからは、新時代の躍動が伝わってくる。この斬新なパッケージで、ダイナオーディオはオーディオの最前線を包み込んだ。



6つのスピーカーを内蔵する最上機の「Music7」。7には、ARC対応のHDMI入力があり、高音質のテレビ用サウンドバーとして使用できる



シリーズは「Music1」、同3、同5、同7の4バリエーションが登場。数字が大きくなるごとにサイズも大きくなる。いずれもアンプ搭載のアクティブスピーカーで、有線入力のアナログ端子も装備。5と7は96kHz/24bitの光デジタル入力を可能とする。また1、3はバッテリーを内蔵したポータブル型で、5、7は据え置きモデル。カラーはライトグレー、ダークグレー、レッド、ブルーの4色を用意。日本で販売価格は未定だが、1が7-8万円、3が10万円、5が12-13万円、7が14-15万円程度になる予定だ

近年ではスマホやパソコンで音楽配信サービスを楽しむことが一般化してきたが、アンプを内蔵する「Music」に飛ばせば、それだけで抜けるサウンドを奏でられる。デマーク生まれのダイナオーディオは、世界的なスピーカーブランド。音づくりに妥協はない。豊かで透明感あふれる音質は、ダイナオーディオの血統を正しく受け継いでいる。実は本体内部に、設置した場所に合わせた自動音響補正装置を搭載している。音は部屋の大きさに、セッティングを部屋の隅に置か、中央にもってこくかでも特性が変化する。そんな状況の差を補正機能が感知し、最適になるよう調整しているのだ。外部からの騒音に対しても、ノイズ適応テクノロジーが自動で音量を

コントロールする。「Music」の先駆者はまだではない。ユーザーの好みを学習し、配信サービスネットワークを横断した曲選びで、お気に入りの音楽を自動再生してくれる。さらにiOS/Android/Apple TVのアプリ「DYN SAUDIO Music」をダウンロードすれば複数の「Music」シリーズをグループ化してさまざまな機能を設定、使用できる。……とここまで、デジタル音源に焦点を当てて紹介してきたが、Musicは全機種がアナログ入力AUXを備えており、フォノユニットやIChargerを内蔵すればアナログプレーヤーとの組み合わせも可能だ。シリーズは4機種で構成され、発売は18年1月。

DENON
PMA-2500NE

アナログ/デジタルの双方で 極上の音像を追い求めた新時代の定番

問い合わせ/デノンマランD&Mインポートオーディオお客様相談センター ☎0570-666-112 http://www.denon.jp



PMA-2500NE。価格230,000円(税抜き)。同時期にネットワークプレーヤーDNP-2500NE、スーパーCDプレーヤーDCD-2500NEも発売中



デノンは1910(明治43)年に設立された日本蓄音機商會と39(昭和14)年設立の放送機器の製作会社、日本電気音響株式会社をルーツにもつ歴史のあるオーディオメーカーである。100年を超える伝統と長年培われてきた技術と情熱を糧に、時代の流れに応じたまざまな音響機器を製造してきた。PMA-2500NEは、時代に即応するデノンの柔軟な開発哲学をもっと顕著に表現した機種といえる。このモデルの先行機種であるアナログ入力専用機のPMA12000は、中級アリアメインアンプの完成形と称されたロングセラー。「シンプル&ストレート」という従来の設計思想を受け継ぎつつ、ハイレゾ音源含むUSB-DAC搭載のデジタルソース対応機として、新しく生まれ変わったのが、PMA12500NEなのである。さらに特筆すべきは、デジタル対応機にリニューアルされたことによって、アナログ音源への親和性がなくなったわけではないことだ。PMA12500NEが画期的なのは、アナログ回路とデジタル回路を完璧に遮断し、レコード再生時には「アナログモード」をオンにして、純粋なアナログアンプとして使える点にある。デジタル回路とアナログ回路が共存する場合に問題となるノイズへの対策も徹底しており、深みや温かみとともに、実にクリアな音像が得られるのである。



メインボリュームの脇に配置されたアナログモードボタン。アナログ音源入力中にはデジタル回路が遮断される

段には大電流を流すことができるHCMOSFETをシングルプッシュアップで用いる。シンプルな回路を採用。出力は余裕が感じられる一方、精度の高い抑圧力も申し分ない。音像の細かな部分を粒立って再現できるので、オーケストラなどの迫力も十分だ。「あのヌメのアナログレコードの魅力を見直そう!」というのが今号特集のメッセージだが、その一方で近年のデジタル音源の進化がめざましいのも確かだ。デジタル、アナログ、両方を楽しみたいという、欲張りなオーディオファンはますます増えよう。アナログとデジタル、どちらも犠牲にすることなく、最上級の音質を追求したPMA12500NEは、そのファンへの期待に応える、新時代の定番アンプである。